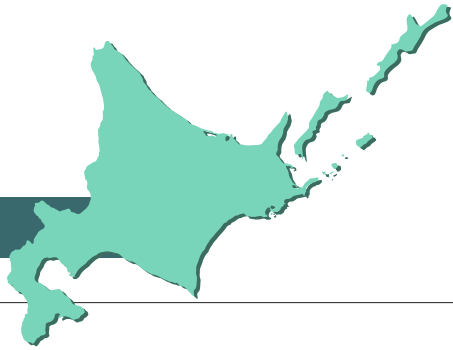
6月の道内景況　情報連絡員レポート

景況感は現状維持も　売上高、収益状況は落ち込みが見られる



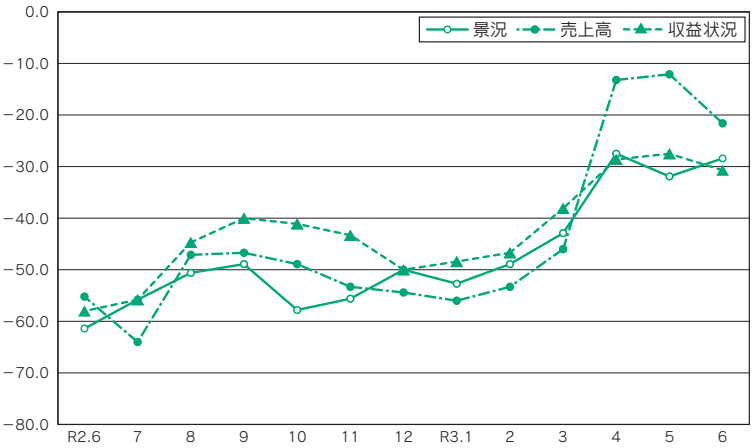
概　況

全業種の主要DIの推移では、「景況」が若干回復したものの、「売上高」「収益状況」は上昇基調から低下に転じた。

業種別の比較では、製造業は「売上高」「資金繰り」「雇用人員」の3項目で、非製造業では「売上高」「収益状況」「販売価格」「取引条件」「雇用人員」の5項目でマイナスが拡大している。

情報連絡員報告によると、製造業は、米国や中国の景気回復基調を受けて材料の売り手市場が形成され、建築材や鋳造資材が高止まり状態になっており、原材料の確保や製品価格転嫁に苦慮している組合が多い。非製造業では、緊急事態宣言解除後も生活必需品以外の買い控え傾向が根強く、飲食・ホテル・観光業を中心に先の見通しを不安視する声が多く聞かれた。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
業界の景況	△31.9	△28.4	3.5 ↗	△28.1	△19.4	8.8 ↗	△33.9	△33.3	0.6 ↗
売上高	△12.1	△21.6	△9.5 ↘	0.0	△3.2	△3.2 ↘	△18.6	△31.6	△12.9 ↘
収益状況	△27.5	△30.7	△3.2 ↘	△25.0	△19.4	5.6 ↗	△28.8	△36.8	△8.0 ↘
販売価格	4.4	0.0	△4.4 ↘	0.0	3.2	3.2 ↗	6.8	△1.8	△8.5 ↘
取引条件	△15.4	△11.4	4.0 ↗	△6.3	6.5	12.7 ↗	△20.3	△21.1	△0.7 ↘
資金繰り	△18.7	△11.4	7.3 ↗	△12.5	△12.9	△0.4 ↘	△22.0	△10.5	11.5 ↗
雇用人員	△6.6	△10.2	△3.6 ↘	0.0	△3.2	△3.2 ↘	△10.2	△14.0	△3.9 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・コロナ禍で販売減となった組合員が目立つ。量販店に納入する業者からは、納入先からの要求が多くなっているとの話も聞く。（水産食料品／小樽）
・コロナが収束しない限り、業務用商品の出荷量が元に戻ることはないため、このまま微減が続くと思われる。（味噌・醤油／全道）
・観光チャネル・業務用チャネルは依然厳しい状態が続いている。（飲料／全道）
・製材市況、原木市況ともにカラマツ、エゾ・トドマツ強保合。カラマツ原木はここに来て梱包等の受注が増加し、在庫増しに動く気配が出てきている。梱包、ラミナ、製材の受注は順調で、本格的に動きつつある模様。エゾ・トドマツ原木も、冬場に民材の伐採が控えられたことから不足感が出てきている。今後は国有林等から供給がある模様だが、需要に足りるかが心配。紙原料は、紙需要が大きく増加している模様で、工場がフル稼働している話も聞く。木質バイオマス原料は順調に集荷されている。外材の高騰で輸入製材の入荷が少なくなっており、建築材を取り合う動きが激しくなっている。今後、ウッドショックの影響がどう波及するか様子を見る必要があると思われる。（一般製材／全道）
・前年同期比で受注量は増加。原木入荷量は少なく、受注対応に苦慮している。（一般製材／中川郡）
・6月の生コン出荷量は前年同月比114.9%の約341千m^3。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・コロナの影響で売上は減少傾向にある。新築物件の絶対数が低迷状態。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・銑鉄、スクラップ、シリコン、カーボン、銅、亜鉛、他鉄製品が昨年同期比130%～200%に高騰している。米国や中国の好景気が材料の売り手市場を形成しているようだ。製品価格転嫁を要請しているが、必ずしも順調ではない。（銑鉄鋳物／全道）
・国内造船所は新造船受注が好調で、特に燃料性が良く環境性能の高い新造船の発注が増加している。将来の燃料として期待されているアンモニアや水素などの研究開発を各社進めている状況。修繕船工事（漁船、保安庁船）や橋梁関係、函館造船所向け造船ブロックが順調で、仕事量は確保されており、先の見通しは明るい。（金属製品／室蘭）
・コロナの影響は残っているが、少しずつ工場も動いてきている。（金属機械工作／全道）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・緊急事態宣言で大型商業施設の営業が縮小した結果、全般的に売上は大幅ダウンした。消費は生活必需品以外の買い控えが顕著となっており、商談や会合、社交の場が激減している影響でファッションやビジネス関連商品で落ち込みが激しい。前年のような給付金もなく、購買意欲は低下したままで、収益状況も悪化している。（各種商品／札幌）
・6月期の当組合買付高は仲卸、荷受合計で先月1月期実績から伸長した。全国的に青果生産物の供給量が伸び、昨年収穫の貯蔵品と今期の新物の端境期を越えて安定供給に繋がった結果と思われる。北海道は6月までの低温が影響し、全体的な生育遅れが生じるため、今後どの程度挽回できるかにかかっている。依然として天候不順、異常気象による悪影響の懸念があり、予断を許さない状況である。（野菜・果実／札幌）
・当月は、コロナ禍を受けた内食化傾向で前年最も伸長した期間であるため、その反動が大きい。大型連休に若干の人出があり、土産商品も幾分卸したが、相対的には引き続き厳しい市況下にある。（菓子／全道）
・電線・ケーブル商品の建値となる銅ベース単価が高止まり状態であり、なかなか販売価格に転嫁できず、収益の減少が続いている。（電気資材／全道）
・ウッドショックの影響で道産材製品の動きが活発になっている。（木材／全道）
・物販は前年比80.6%と大幅減となった。昨年はキャッシュレス消費者還元事業の最終月で、駆け込み需要・巣ごもり需要により家電・家具が大幅に増加し、一昨年と比較して112%に増加した月だったが、本年は同業種が前年比50%～60%代と大きく減少した。金融は昨年比で123.5%と大幅に増加したが、昨年が一昨年比55.3%と過去最大の減少を記録した月で、一昨年と本年との比較でも68.3%と依然として需要が戻らず厳しい状況が続いている。（各種商品／旭川）
・緊急事態宣言が解除された後も客足・売上の減少が止まらない。（各種商品／小樽）
・6月取扱高は前年比102%だが、前年はコロナ禍の影響を受けていたため良い状況とは言えない。緊急事態宣言が消費経済に与えた影響は現状大きく、ワクチン接種が早急に進み、経済活動が一気に改善することを期待したい。（各種商品／苫小牧）
・コロナ禍の影響で、インバウンド観光客の消失や国内観光客の減少など朝市を取り巻く環境は極めて厳しい。旅行もままならない地元市民をターゲットに、手頃な価格でランチやテイクアウト商品を提供する新企画をスタートした。（各種商品／函館）
・売上高は対前年比81.44%の実績。来店客数も減少した。依然として飲食店への納品業務は苦戦している。（野菜・果実／札幌）
・緊急事態宣言が解除され、観光客や団体ツアーも徐々に戻ってきている。今年はトキシラズが不漁で価格も高騰した。（鮮魚／釧路）
・ワクチン接種が徐々に進んでいるが、未だ売上に影響を及ぼすほどではなく、飲食・観光・ホテル業の回復は見えない。魚は、ホテルや高級店で使うカンパチ・大トロ・鯛など高級魚の価格が下がっているが、売り先がなく、商品がダブついている。今後のイカ・サンマ・鮭等の入荷増を期待している。（各種食料品／札幌）
・原油価格は4月以降上昇傾向にあり、6月は1バレル当たり70ドル台前半の水準と今年の最高値を更新中で、今後も更なる高騰が懸念される。原油価格のコスト増分は随時小売価格に反映させているものの、安値市況が続く一部激戦地では地場中小零細企業の経営は厳しい。ガソリンの販売量は例年と比べ全国的に減少しており、コロナ禍以前の状況には回復していない。まん延防止等重点措置の実施による、更なる企業活動及び人の流れの停滞や、高値感によるガソリン販売への影響が懸念される。（燃料／全道）
・緊急事態宣言解除により、観光需要の回復に期待していたが、動きは鈍い状況。原油価格も上昇傾向にあり、業界全体で厳しい経営状況が続いている。（燃料小売業／稚内）
・6月の卸値は原油価格上昇から改定で推移、小売店の販売価格も大勢は価格改定推移の模様。収支状況は従来と同じく量販店の攻勢により厳しい利益口銭に圧縮され、コロナによる減販影響もあり、利益は横ばい状態のようだ。（燃料小売業／旭川）
・調理家電や加湿器など話題の小型家電商品は店頭売りが中心のため、訪問販売を主とする小型電器店は巣ごもり需要の恩恵を受けていない。今年は昨年よりエアコン販売が遅れており、売上は減少している。（電機機械器具／全道）
・コロナ禍ではあるが、各社とも対策を講じ、昨年並みの業績を確保している。（農業用機械器具／全道）
・小売は前月比で多少動いている。新車の納車遅れ等商品自動車の流通不足や相場高の影響で仕入に苦労しているようだ。（中古自動車／札幌）
・天候が回復し売上増を期待していたが、緊急事態宣言発令で外出が憚られる状況だったため、売上台数は伸びなかった。昨年から続く自転車や部品の入荷遅れの影響もじわじわ現れてきている。（自転車・自動車／全道）
・地元百貨店の5月売上高は前年同月比21.0%増の2億7千2百万円。6月共通駐車券の利用は前年同月比53.0%、買物共通バス券は前年同月比104.3%。緊急事態宣言は解除されたものの依然厳しい状況が続いている。（帯広市／帯広）
・緊急事態宣言の解除を受け、休館していた2施設が営業を再開、町独自の宿泊助成事業も再開したが、6月の集客数はかなり厳しい。（旅館／音更）
・大きな混乱はないが、引き続き利用者の増加は望めない状況。燃料等重油の値上げも大きな負担となっている。（公衆浴場／全道）
・政府主導の来春大卒者の就職採用試験が6月1日からスタートした。試験はオンライン方式が定着しつつあるが、人材不足の道内中小IT企業はインターンシップを採用の切り口にして解禁前から採用活動を進めている企業が多い。理工系を卒業する技術系人材は売り手市場で、なかなか中小IT企業での採用は難しい。最近は一般企業でもDX化のためのデジタル人材の採用が多く、採用の厳しさに拍車をかけている。そのため、人材不足、人手不足を抱える道内中小IT企業は新卒者や転職者を区別することなく通年で採用している。IT企業にとっては賃金の上昇も離職防止に必要で、新卒者のミスマッチ退職を防止することや、いかに熟練技術者の離職を抑えるかも喫緊の課題となっている。仕事の需要は増加しているが経費も上昇しているため収益が思うように伸長していないのが実情。（ソフトウェア／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・公共工事に関しては年度初めの入札物件が出てきているが、件数に関しては例年より少なく感じる。また、落札金額も狭い範囲の金額幅の中で各社が競い合う状況も増えてきている。民間工事は、道内の地域によって工事案件の規模や数に大きな偏りがあるようで、それぞれの地元の物件だけでは十分な仕事量を確保できない企業も出てきている。工事の受注金額は、他社と今まで以上に競い合っていかなければならない中、電線を始めとする資材費や労務費の上昇をどのように調整し、原価を詰めていくのかが大きな課題となっている。（電気工事／全道）
・組合員は前月に発注されたメーター交換や老朽管更新工事を引き続き対応している。月末には追加の老朽管更新工事が発注され、残りは本管工事が数本ある。（管工事／名寄）
・外資系の医療機器緊急配送案件についてコストカットを求められている。協同組合としての売上はコロナ禍でありながら落ち込んでいないが、組合員個々の仕事は厳しい状態が続いている。（一般貨物自動車運送／全道）
・全般的に貨物量が減っている。緊急事態宣言下で休業する飲食店が多く、関わる商材の動きは減少した。まん延防止等重点措置に移行後はレンタカー利用の給油客が多少増えつつあり、観光客も少しずつ増加しているようだ。（一般貨物自動車運送／小樽）
・燃料価格が上昇傾向にあり、動向を注視している。（一般貨物自動車運送／苫小牧）
・飲食店向けの貨物は引き続き低調な状況。日用品・雑貨は多少減少したもののコロナの影響は少ない。域内輸送は前年並み。5月以降原油価格が高騰し、収益面でも悪化している。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比34.8%減少。乗務員数は前年同月比16.6%減少。5月分チケット取扱高は前年同月比25.1%増加。（一般乗用旅客／旭川）